



「生きること」の意味について考える

10月に本校に来ていただき、先生方に研修を、2年生にワークショップをしていただいた大木浩士さんの文章です。
皆さんに読んでもらいたいと思い、大木さんに掲載許可をお願いしたところ、ご快諾いただきましたので掲載します。

DES EDUCATION.

「死を前にする自分」をイメージすることで、自分にとっての大切な価値観や、生きる意味について考えるワークです。

電車で本を読んでいたら、このワークのことが紹介されていました。

私は2025年1月に心筋梗塞を発症しました。

症状は重く、かなり危険な状態でした。

死を覚悟しました。

自分の死というものが、リアルに、まさに目の前にあったのです。

そんな経験をした私の視点から、「生きていく上で大切にしたいこと」を書いてみたいと思います。

■命は宝

まず、今のこの「生きている」という状況は、宝物だと思います。

やろうと思えば、何でもできる。

その自由が与えられているのが、今の私たちの状況です。

本を読もうと思えば読めるし、

旅に出ようと思えば出ることができる。

自分の意思で、何かを創造することもできる。

考えを創造し、文章を創造し、自分の手でモノや絵などを生み出すことができる。

生きているうちに、生きている時にしかできないことを、やりきることに。

自分の頭、自分の体、

そして自分の才能など。

それらを生かし、自分ができるところまで、存分に行うこと。

そういうことに、自分の命の時間を使っていきたい。

本を読みながら、自分の死の間際を振り返り、今あらためてそう思います。

面白いもので、人間は、何かに取り組めば取り組むほど、

取り組んだことが上達するようにできています。

絵を描き続けていけば、絵を描くことが上達する。

人前で話をし続けていけば、話をする力がどんどん高まっていく。

だから、自分が「楽しい」と思うこと、

自分が「伸ばしたい」と思うことに、取り組んでみるのが大切だと思うのです。

自分が何になりたいかは、どうでもいい。

自分の才能は何か。

そんなものは、最初はわからなくていい。

まずは今、少しでも気になるもの、

心が動くものから始めればいい。

取り組んで、関心が高まり、上達して、

【裏面へ続く】

その後、やりたいことや才能に気づけばいい。

人間は、どんな経験も自分の中に「蓄積」していける存在です。

そして、関心を持ったものを、自由に「形にしていく」力も持っています。

すごいですね。

人間は、まるで神様のようです。

この力をもっているなら、その力を使ってみることに。

時間がなかったり、お金がなかったりするのかもしれませんが。

しかし、そんなものは優先順位のつけ方しだいだと思います。

要は「守り」を最優先にするのか、「攻め」に軸足を置くのか。

そういうことで、行動の選び方が変わってくるのだと思います。

できることがあるのなら、やってみる。

関心を持っているものがあるのなら、取り組んでみる。

少し「バカになる感覚」を抱きながら、

勇気を出して取り組んでみる。

そうすることで、人とのつながりが生まれ、

才能に気づき、自分が本当にやりたいことがわかってくるのだと思います。

私は自分が死ぬときに、

「ああ、面白い人生だった！

やりたいことを、やりきった！」

そう思って死にたいと思います。

1年前、自分の死に直面した際は、そうは思えなかったからです。

「まだやれることがあった。

まだやりたいことがあった。

自分の力を生かし切れていなかった。

伸ばせば伸びる力があったのに、伸ばすことに力を注がなかった」

命が燃え尽きようとする自分の中に生まれた、率直な強い気持ちです。

家族や大切な人たちへの申し訳なさや、感謝の気持ちも、もちろん浮かびました。

自分の死は、ドラマチックでも、壮大でも、華やかでもなく、

暗い夜のベッドの上で、とても寂しく、ひっそりと訪れました。

孤独でした。

向き合えるのは、自分だけでした。

だからこそ、「自分が、自分の人生に対してどう思えるのか」が重要だと思ったんですね。

「生きる」ということに対して、どんな意味を見出し、

どんな行動に移すのか。

それは人によって様々でしょう。

ただ、死を目の前にしたことがある私は、今このように考えるのです。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

自分が楽しいと思うこと、そのことを続けることで、そこから好きなことが見つかる。好きになるから、さらに続けることができる。続けるからこそ、自分に才能があるとかないかが分かる。

でも、才能があるとかないとかは、本当は関係のないことで、好きなことを続けるからこそ、その世界の人とのつながりができ、自分自身の世界が広がってくる。

「楽しいこと」「好きなこと」を通じた自分の世界の広がりが、「生きる意味」だと私は思います。

人生いくつになっても、「楽しいこと」「好きなこと」を見つけようとし、そのより深いところへ行こうとすることは、「生きること」の重要な意味だと私は思います。

「死」を直前にする経験は誰も望みませんが、「死」を前にしなくても、このことが分かっているならば、豊かな人生が送れるのではないのでしょうか。

抽象的で分かりにくい話ではありますが、豊かな人生を送るために、私たちは勉強をしているのです。【三木】